

■科目名

教育心理学

Educational psychology

■開設年度

2021

■区分

教職理解科目

■学科名

心理学

■分類

■単位数

2

■履修期

1期

■履修条件

■開講期

前

■担当教員

假屋園昭彦

■代表教員名及び連絡先等

假屋園昭彦 kariya@edu.kagoshima-u.ac.jp

■オフィスアワー

毎週火曜日、木曜日、金曜日の12時から13時まで。事前にメールにて連絡をしてください。

■講義の概要（目的・内容・方法）

学習過程、意欲、個人特性、教育評価、学級集団と学級経営、生徒指導、発達障害とその対応のあり方について、理論と実践の往還というテーマを念頭に置いて、まず理論面の解説を行い、次に理論が実践面でどのように生かされているか、実際の学校場面でどのような形で現れてくるのか、という実践面での解説を行う。

発達障害については、理論面と実践面の対応のあり方を具体例に即して説明する。全体をとおして、児童生徒の心身の発達像を描きながら、発達と学習の関係のあり方、心身発達の特徴を、理論面および実践面から捉える。

■授業の到達目標及びテーマ

【理解目標】 学校教育における理論と実践との往還をテーマとし、このテーマのもと学校場面で生じる児童生徒の心身の発達と学習の過程について理解する。さらに発達障害についての理解を深め、その特徴と学習面、生活面での対応のあり方を理解する。

【何ができるようになるのか】

上記の理解に基づいて、思春期の生徒の学習面および生活面の具体的な指導が可能になる。また生徒指導についての問題が発生した場合、迅速な対応行動をとることができるようになる。上記の内容を理解しておくことによって、自らの判断で行動することができるようになる。

■授業計画

第1回：教育心理学という学問の性質：何を扱うのか、なぜ教職にとって必要なのかを理解してもらうことを目標とする。

第2回：学習意欲および動機づけ理論：動機の種類および意欲が学校場面で扱われる場面について理解することを目標とする。

第3回：学習意欲に関連する諸要因：学習性無力感、学習の統制感、原因帰属、自己効力感といった意欲に影響を与える要因を取り上げ、これらの要因の育成のあり方について理解することを目標とする。

第4回：知識の獲得と適用：知識の獲得機序と知識の適用の際の特徴（類推や知識の領域固有性）について理解する。記憶と理解の認知過程に関する理論を理解することを目標とする。

第5回：個人特性としての知能論：知能観の変遷および知能検査の種類について理解することを目的とする。

第6回：個人特性としての認知スタイル：認知スタイルの理論について理解し、認知過程から教育方法を理解することを目標とする。

第7回：自己学習力・自己調整学習：学習過程におけるメタ認知の役割、児童生徒の学習観が学びに及ぼす影響を学ぶことをとおして、自ら学びを組み立てる自己学習・自己調整の学びについて理解することを目標とする。

第8回：教師のリーダーシップと学級経営：リーダーシップ論を理解し、学級経営のあり方を理解することを目標とする。

第9回：教室での児童生徒の人間関係の諸特徴：近年の生徒（中学生、高校生）のコミュニケーションの特徴について理解し、その対応策を理解することを目標とする。

第10回：学習環境のデザイン：ユニバーサルデザイン論および授業形態（教師主導型、生徒主導型、複式学級）の学習効果について理解することを目標とする。

第11回：教育評価：教育評価の種類と歴史的変遷および教育評価の意義について理解することを目標とする。

第12回：特別支援教育：発達障害の種類について学び、指導のあり方を理解することを目標とする。

第13回：生徒理解のあり方：カウンセリングの基礎知識（ねらい、共感、受容）を理解することを目的とする。

第14回：生徒指導のあり方：生徒指導の目的、学校での組織的対応のあり方、いじめや不登校の際のチェック

ポイントを理解することを目的とする。

第15回：道徳教育のあり方：道徳教育の意義および道徳性の育成，道徳の授業の基本的な考え方を理解することを目的とする。

■授業外学習（予習・復習）

毎回の講義の中で次回に扱う内容を予告する。このことによって自らの中学・高校時代を振り返ってもらう。復習としては、授業後に提出してもらうレポートを復習として位置づける。レポートの課題は、講義で学んだ知識に自らの中学・高校時代を重ね合わせて考察してもらう内容になっている。

■受講要件

1期に習得することが望ましい。

■成績の評価基準

毎回の授業後に提出してもらう15回分のレポートの配点を90%，全授業終了後に提出させる最終レポートの配点を10%とする。

■教科書・参考書

担当教員である假屋園が自ら作成した資料を使用する。市販の書籍の使用はない。

■教師としての資質能力に関するチェック項目

3. 教育方法に関する理解

【A教職の理解】教育方法の理論に関する理解を深め、複式指導や少人数指導，教材開発や活用，授業分析など，指導法や授業改善について理解している

7. コミュニケーション力

【B連携協働力、自己改善力の育成】他者とのかかわりや適切なコミュニケーションの在り方について基本的な理解を深め、自らそれを実践することができる

9. 学習者の心理・発達に関する理解

【C学習者理解】子どもの発達や心理など，子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており，それらを生かして子どもの発達を分析することができる

10. カウンセリングに関する理解

【C学習者理解】カウンセリングや教育相談についての基礎的な知識を身に付けており，それらの知識を学習者理解に活かすことができる

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基礎的な知識を身に付けており，それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

12. 学級経営に関する構想力

【D構想力，展開力，評価力等】学級経営の在り方に関する基礎的な知識を身に付けており，学級等の集団及び集団と個のかかわりなどについて構想することができる

13. 生徒指導に関する構想力

【D構想力，展開力，評価力等】個々人の発達課題の把握や問題行動及びその対応等の理解を深めるとともに，積極的な生徒指導の在り方について構想することができる

14. 教材分析力及び授業デザイン力

【D構想力，展開力，評価力等】教材を分析する能力を身に付けており，教材研究にもとづいて授業をデザインすることができる

15. 授業展開力及び授業評価力

【D構想力，展開力，評価力等】基礎的な教育技術や教育評価について理解し，それを活かした授業実践と，授業の評価・改善を行うことができる

19. 道徳，特別活動，総合的な学習の時間等に関する理解

【E教科領域等の内容理解】道徳，特別活動，総合的な学習の時間など，教科以外の教育活動について，その指導内容や指導方法に関する基礎的な知識を身に付けている

アクティブ・ラーニング

振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他）

レポートによる自らの中学・高校時代の振り返り・講義の中で随時質問を受け付ける。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

講義中の質問の受け付けはすべての回数で定期的実施する。

■実務経験のある教員による実践的授業

実務家教員の担当の予定はない。しかし担当の假屋園はこれまで中学・高校でスクールカウンセラーの仕事を行い、教員と保護者対応を行ってきた。また教育委員会における生徒指導関係の委員を担当してきた。研究面では認知・学習心理学および道徳の授業分析の研究を専門とし、附属小学校の校長として附属小学校の各教科の授業参観、授業研究会に参加してきたので、授業の学習過程や授業分析および生徒指導といった学校場面の話は可能である。

■その他

教職に関する意欲と関心を高める講義を目標とする。